

平成 21 年 2 月 16 日

各 位

会 社 名 アルゼ株式会社
 代表者名 代表執行役社長 徳田 一
 (J A S D A Q ・ コード 6425)
 問合せ先 専務執行役 丹治 幹雄
 電話番号 03-5530-3055 (代表)

平成 21 年 3 月期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年10月1日に公表しました業績予想及び平成20年5月26日に公表しました期末予想配当を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期通期 業績予想の修正

(単位：百万円)

(1) 平成 21 年 3 月期連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	62,000	10,000	18,000	11,000	137 円 61 銭
今回修正 (B)	21,000	△9,000	△4,000	△6,000	△75 円 06 銭
増減額 (B - A)	△41,000	△19,000	△22,000	△17,000	—
増 減 率 (%)	△66.1%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	72,133	16,088	23,311	38,086	476 円 52 銭

(2) 平成 21 年 3 月期個別業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	26,100	2,800	2,800	1,700	21 円 27 銭
今回修正 (B)	7,500	△6,500	△5,000	△8,500	△106 円 33 銭
増減額 (B - A)	△18,600	△9,300	△7,800	△10,200	—
増 減 率 (%)	△71.3%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	58,903	9,521	9,846	9,350	116 円 99 銭

2. 修正理由

(1) 連結業績予想修正

パチスロ事業の市場環境は、4号機から新規制5号機へ移行し、射幸性が厳しく抑制されたことに伴い、ユーザー離れが続いた結果、金融危機に伴う資金調達の困難も相俟って、ホール店舗の閉鎖・倒産が多発しました。しかしここに来て淘汰の流れも一巡し、ホール店舗の経営の安定化の兆しが見えてきております。

当社の業績に関しては、上半期においては、パチスロ事業におけるパチスロ機の導入台数が当初計画の96,700台に対して、34,600台に止まっておりました。これを踏まえ、下半期においては、営業体制を抜本的に再構築することにより、上半期の未達分約60,000台を補うことを念頭において、150,000台の導入を計画しました。

このような販売不振は、人気機種の開発企画での市場情報不足に起因しており、具体的には、営業担当者に店舗での情報収集を徹底させることにより、市場を把握すると同時に、マーケティングが人気機種を分析することで人気の要素を基軸に開発企画を行います。このようにマーケティング体制の強化と、開発とマーケティングで情報を共有化できる組織の再構築をいたしました。昨年末に発表し、先般完了しました国内事業会社の統合もこの一環で、この営業と開発の組織の再統合は、営業による情報収集とマーケティングによる分析を開発企画の基軸とする効果を狙ったものです。

この成果もあり、人気の機軸を反映した機械の開発が進んできておりますが、一方で昨今機械の認可に要する時間が長期化しており、この結果これらの機械の販売に遅れが発生しております。期中にこの遅れを取り戻すのは厳しい状況です。

パチスロ機については、上述の機械の認可に要する時間の長期化の他、ロケーションテストを実施し、市場より一定以上の評価を得られたもののみを投入する方法に変更した結果、下半期の投入タイトルは3タイトルのみで、計画に5タイトル未達となります。また導入台数は5タイトル導入できなかったのに加え、上記の「スーパーリアル麻雀」を除くここまで投入した2タイトルが人気機種の開発企画での市場情報不足に起因する販売不振のため、計画の約半分の28,000台導入の見込みであり、下半期計画の150,000台に比し、大幅な未達となります。これにより、売上高が計画比約255億円の減少要因となっております。また、パチンコ機については、第4四半期に50,000台の販売を計画しておりましたが、上記の通りこの第4四半期はパチスロ販売強化に注力することから、今期内の市場投入は見送ることといたしました。これにより売上高が計画比約150億円の減少要因となっております。

以上の結果、表記のとおり、通期の売上高及び営業利益の業績予想を修正いたします。

経常利益及び当期純利益につきましては、持分法適用関連会社であるウィン・リゾーツ社の業績が好調に推移しており、第3四半期までの純利益が369,840千USDであったことと、ウィン・リゾーツ社が自己株式の取得を行ったことにより、のれんの償却が生じたことなどにより、第3四半期末までにおいて持分法投資利益として7,133百万円計上しております。また、今般の急激な円高や、フィリピンにおけるカジノプロジェクトに関連する関係会社を連結したことなどに伴い、当第3四半期連結会計期間において、為替差損2,707百万円を計上しております。加えて、持分法適用会社である Luck Holdings (Pty) Ltd 及び Luck At It Eastern Cape (Pty) Ltd の株式売却益1,157百万円を計上しております。

以上の結果、表記のとおり、通期の経常利益及び当期純利益の業績予想を修正いたします。

なお、ホール店舗においては、波の荒いパチンコ機を求める指向が強くなっております。このような市場環境であっても、市場分析力と5号機の規制を熟知した中で、これに工夫を凝らし魅力ある人気機械を開発いたします。この好例が2月より導入を開始している「スーパーリアル麻雀」です。

また、海外ゲーミング機器事業については、金融危機に加え、円高、市況の悪化から北米のインディアンカジノを除き一気に需要が減退し、海外メーカーが軒並み25-40%の値引きに踏み切っている状況です。このような環境下、当社としては、円高、競合他社の値引き、及びカジノでの購買意欲の減退に対応するために、海外ゲーミング機器事業をネバダ当局の承認を待つ国内事業から切り離し、当社の負担を軽減させるとともに、コストダウンを目的として生産拠点を海外に移行させ、当社より独立して事業運営を遂行する体制を構築することで、国内事業に対するコスト負担を軽減させることにいたします。

さらに、当社の次代の基幹事業として期待するフィリピンのカジノプロジェクトについては、フィリピン娯楽賭博公社(PAGCOR)の許認可を取得した中で、更に金融危機での様子を見て準備体制を整えながら、その本格投資の着工を遅らせ、完成時期を当初計画より1年強先送りする予定で検討しております。

<備考> 下半期パチンコ機計画

	投入タイトル数	導入台数
前回修正計画	8 タイトル	150,000 台
今回修正計画	3 タイトル	28,000 台

(2) 個別業績予想修正

連結業績予想の修正に伴い、修正いたします。

3. 配当予想修正

当期は、1株あたり25円の期末配当金を予想しておりましたが、上述の通り、大幅な当期純損失を計上する見込みとなりましたので、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきますと存じます。

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	年 間
前回予想 (平成20年5月26日)	円 銭 0.00	円 銭 0.00	円 銭 0.00	円 銭 25.00	円 銭 25.00
今回予想	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
当期実績	0.00	0.00	0.00	--	--
前期(平成20年3月期)実績	0.00	0.00	0.00	60.00	60.00

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上